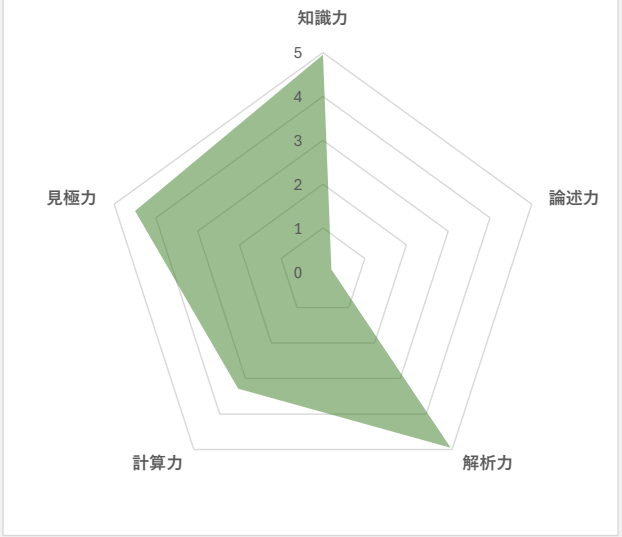
2025 年度　2月5日　実施　私立　東京医科大学　医学部　講評　生物

総合分析

試験区分	一般
制限時間	60分（理科２科120分）
大問数	全 3 問

合格に要する能力（５段階）



合格に要する能力（５段階）		
知識力	4.8	出題分野の幅広い知識を有するか
論述力	0.0	設問の指定に沿って的確に記述する力
解析力	4.8	図表データなどから分析・解析する力
計算力	3.1	式を組み立て，正しく計算する力
見極力	4.3	難度を判断し，適切に時間配分する力

出題分野

系統と進化	8%
生命現象と物質	47%
遺伝子	17%
生殖と発生	4%
生物の環境応答	17%
生態	8%

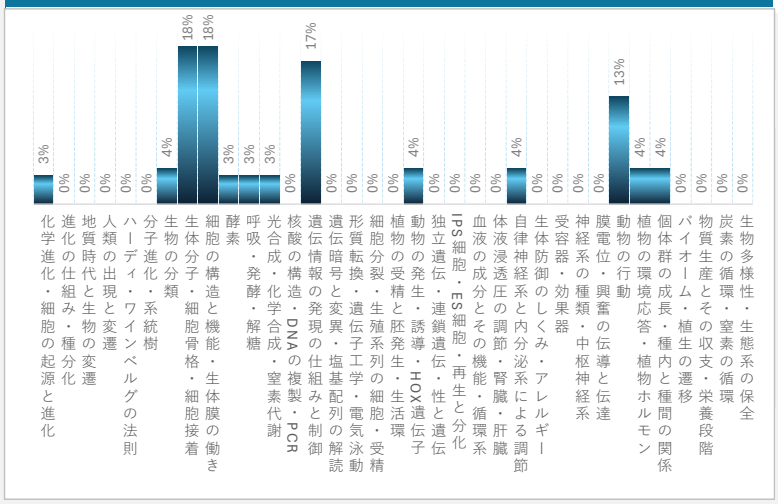
本年度 解答形式

選択肢 100%

本年度出題テーマー覧

第 1 問	小問集合
第 2 問	タンパク質の構造と機能、シグナル配列
第 3 問	生物時計と時計遺伝子

本年度 出題詳細分類



特殊問題の有無	数理生物学なし	生物物理なし	ノーベル賞あり	範囲外問題なし	長文論述なし

特記事項	特になし

総合評価

難度	3.3	最難を５とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率（予想）	58%
分量	70分	完答に要する時間（制限時間は60分）	やや多い	標準	

入試の特徴と対策	▶大問ごとにテーマが一貫している。分野を横断する融合的な大問がほとんどない。
入試から見る大学が求める学生像	全問選択問題であるが，どの問題もレベルの高い考察問題になっている。見た目以上に難度の高い問題が多く，処理すべき情報量も多い。選択問題だからといって安易に選択肢を選んでも合格には至れない。与えられた情報を吟味し，一つ一つの選択肢の合理性を考える必要がある。そのような骨太の考察に耐えられる，科学的思考を尊重する姿勢が求められる。